

2020年度 決算説明会

第97期：（2020年4月1日～2021年3月31日）

2021年4月30日



太平洋工業株式会社

目次

1. 2020年度実績
2. 2021年度通期予想
3. 中期の取組み
4. サステナビリティ経営

本資料取り扱い上の注意点

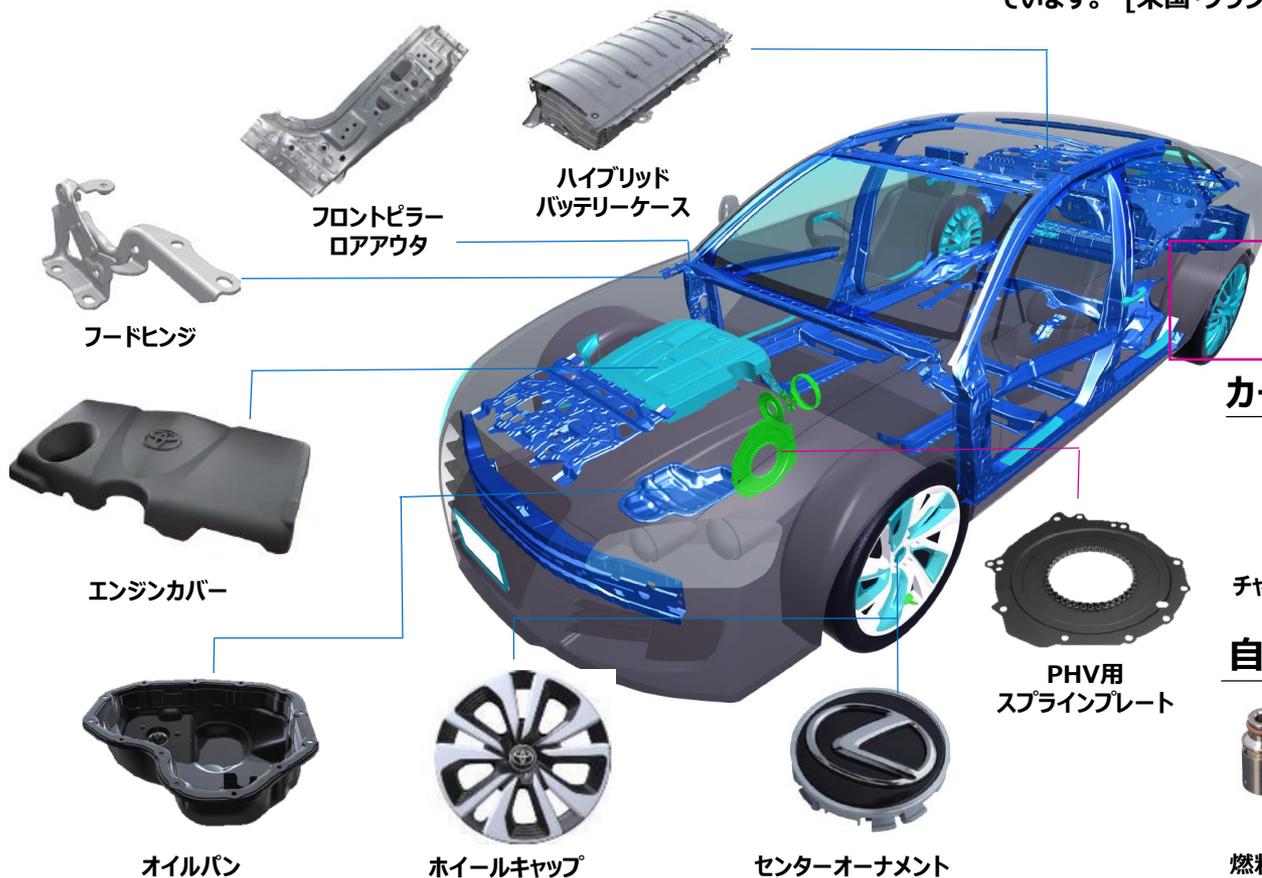
本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

事業と主要製品の概要

1930年創業、格付「A – 安定的」、国内8工場・海外8カ国・17社

プレス・樹脂製品事業

軽量化と高剛性を両立させる超ハイテン材の成形技術をもつプレス製品、フィルム加飾技術やNV性能制御技術などで多彩な製品を提供する樹脂製品などを製造しています。[米国・中国・台湾・タイ]



バルブ製品事業

複数の世界トップシェア製品をもつバルブ製品、世界で需要増加が続いているタイヤの空気圧を監視するシステムのTPMS製品や、鍛圧製品などで構成されています。また、航空機、産業機械、エネルギー産業向けバルブも製造しています。[米国・フランス・ベルギー・英国・中国・台湾・韓国・タイ]

タイヤバルブ関連



カーエアコン関連



自動車以外の部品



2020年度の振り返り

感染防止・雇用・生産体制維持を第一義に GLOCALに足元固め

コロナ禍：稼働停止

- 感染防止：社員・家族・地域連携
- サプライチェーン：雇用確保、生産体制維持
- 原価低減・固定費削減・Web活用
→1Q赤字から上期黒字化、通期回復

新たな課題：

- 材料、半導体供給懸念による生産変動
- コロナ影響の長期化、第4波

1-1 当期 連結業績実績

収益改善・固定費削減活動により、コロナ禍でも利益を計上

(百万円、%)

	2019年度		2020年度		前期比			
	4Q実績	通期実績	4Q実績	通期実績	4Q実績		通期実績	
					増減	増減率	増減	増減率
売上高	42,893	過去最高 165,969	42,369	150,408	△524	△1.2	△15,561	△9.4
営業利益	3,712 8.7%	過去最高 10,511 6.3%	過去最高 4,011 9.5%	8,974 6.0%	298	+8.0	△1,536	△14.6
経常利益	3,339 7.8%	11,130 6.7%	過去最高 5,345 12.6%	11,218 7.5%	2,006	+60.1	88	+0.8
当期純利益	1,687 3.9%	7,256 4.4%	過去最高 3,715 8.8%	7,982 5.3%	2,027	+120.2	726	+10.0

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です。

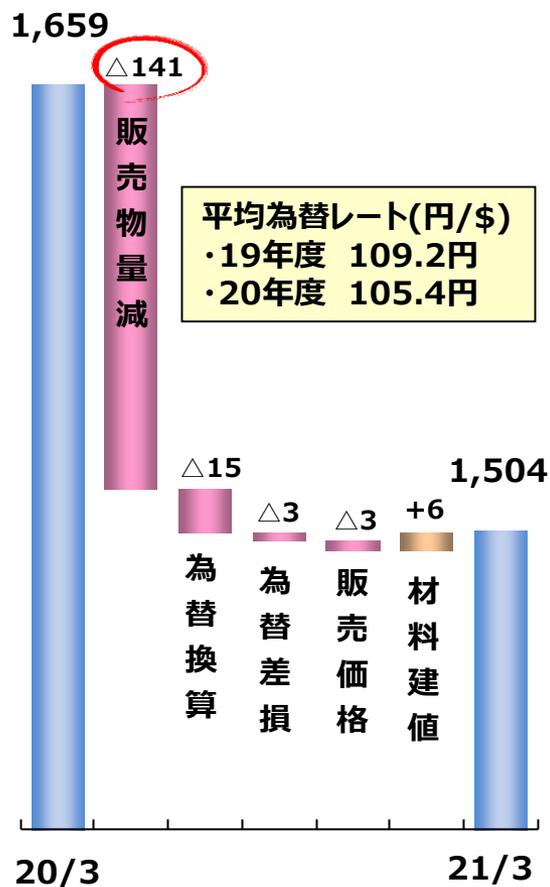
- ✓売上高 2Q以降の販売回復が4Qも継続し、ほぼ前年同期並み。通期は1Qの減産影響が大きく、約1割弱の減収。
- ✓営業利益 改善努力により、減産時でも利益が出る体質へと変革。4Qとしては過去最高益を更新。利益率も向上。(3Qと同レベル)

1-2 連結 売上高・営業利益増減要因

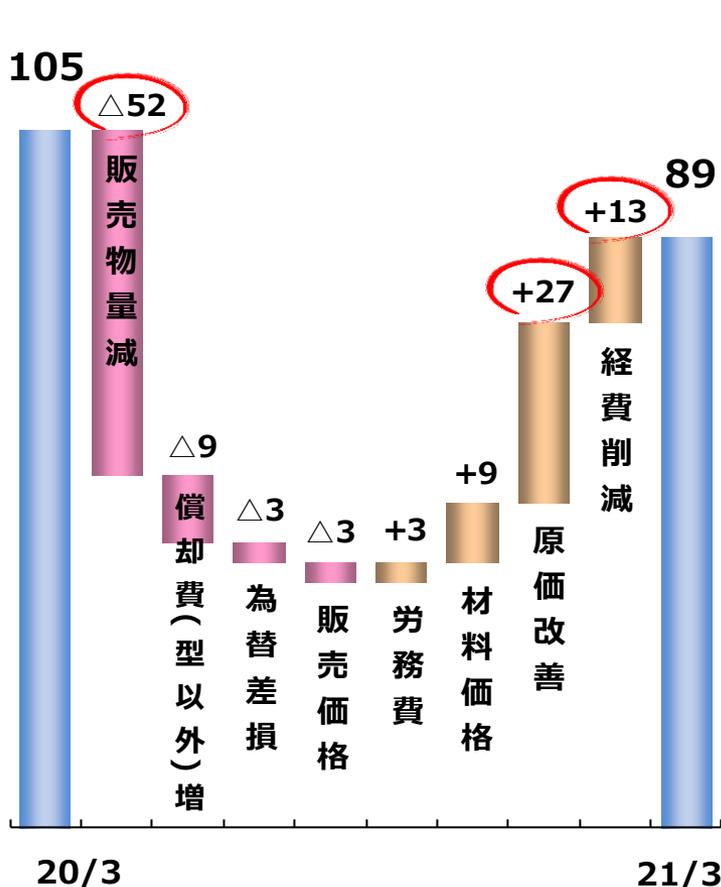
コロナ影響により大幅減収なるも、改善・経費削減で減益幅を縮小

《20年度 対 19年度》

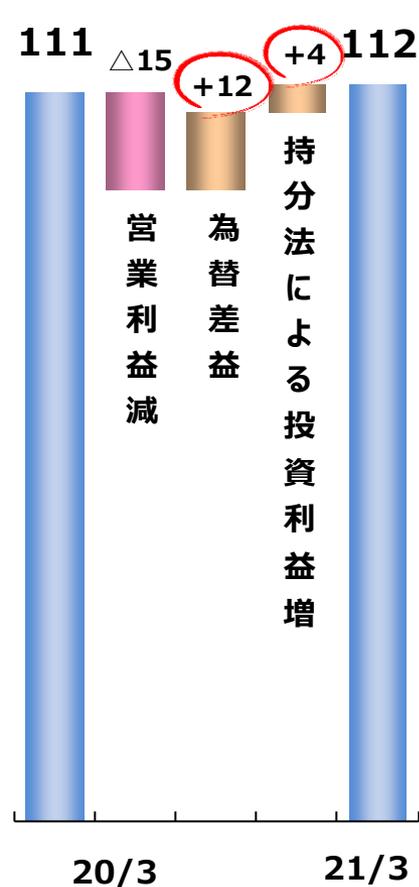
売上高△155億円



営業利益△15億円

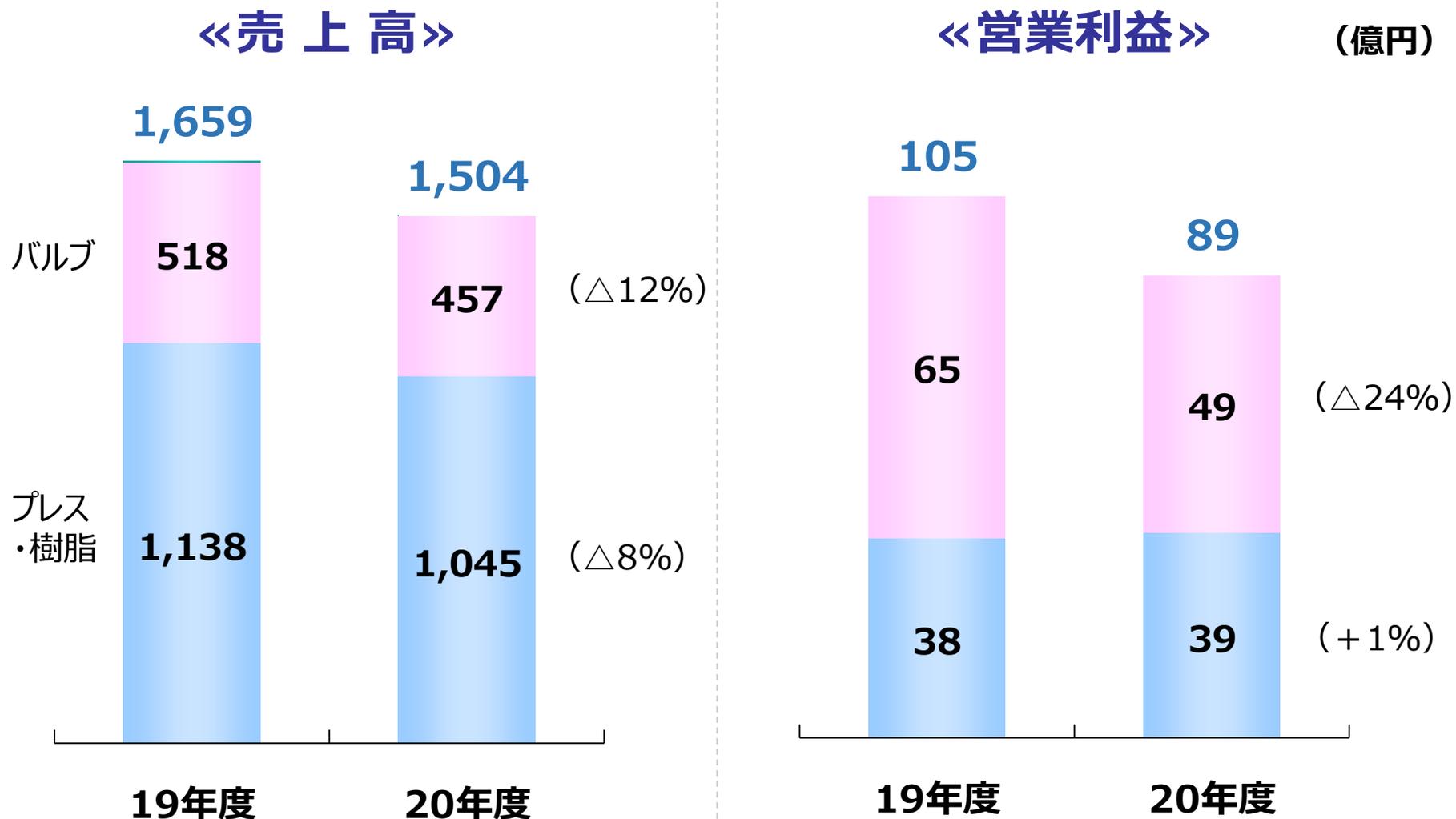


経常利益+1億円



1-3 連結事業別セグメント

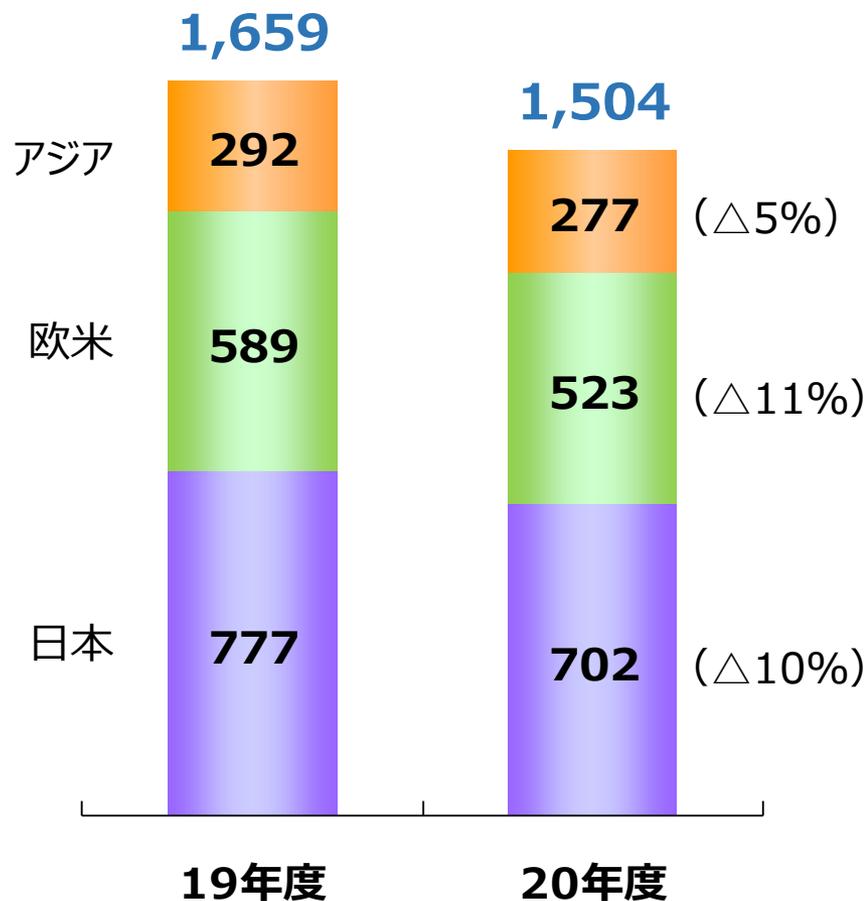
プレス・樹脂は減収ながら増益。バルブは減収減益



1-4 連結地域別セグメント

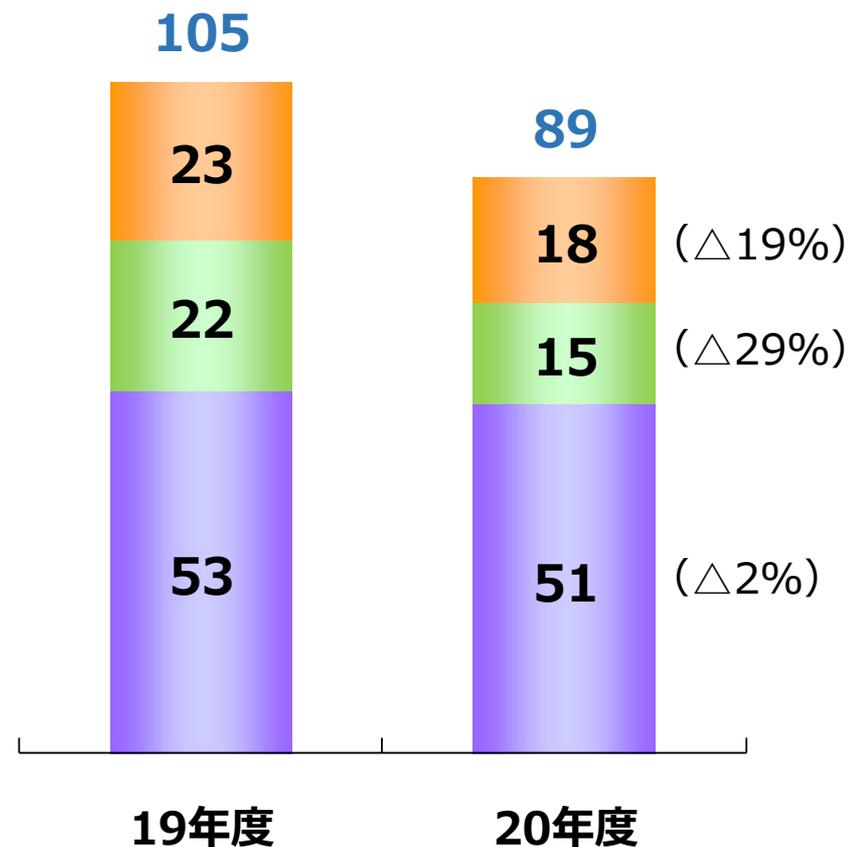
上期に黒字化し、下期に利益上積み。日本の利益はほぼ前期並み

《売上高》



《営業利益》

(億円)



1. 2020年度実績
2. 2021年度通期予想
3. 中期の取組み
4. サステナビリティ経営

2-1 次期 連結業績予想

コロナ・部品調達リスクの中、年度末に向けて緩やかに上向くと想定

(百万円、%)

	2020年度		2021年度		前期比			
	2Q累計 実績	通期 実績	2Q累計 予想	通期 予想	2Q累計		通期	
					増減	増減率	増減	増減率
売上高	64,827	150,408	77,500	156,000	12,673	19.5%	5,592	3.7%
営業利益	862	8,974	4,000	9,500	3,138	364.0%	526	5.9%
経常利益	1,313	11,218	4,800	11,500	3,487	265.6%	282	2.5%
当期純利益	942	7,982	3,300	8,000	2,358	250.3%	18	0.2%
売上利益高率	1.3%	6.0%	5.2%	6.1%	3.9%		0.1%	
ROE	-	7.6%	-	7.0%	-		△0.6%	
ROA (営業利益 [△] -)	-	4.2%	-	4.1%	-		△0.1%	
一株当たり 純資産	-	(円) 1,846	-	1,938	-		92	5.0%

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益です。

※収益認識会計基準の適用により、従来は売上としていた客先受給品を次期から売上原価と相殺表示いたします。(2021年度の影響は53億円減。)

✓売上高 顧客生産計画等、入手可能な情報に基づき算定

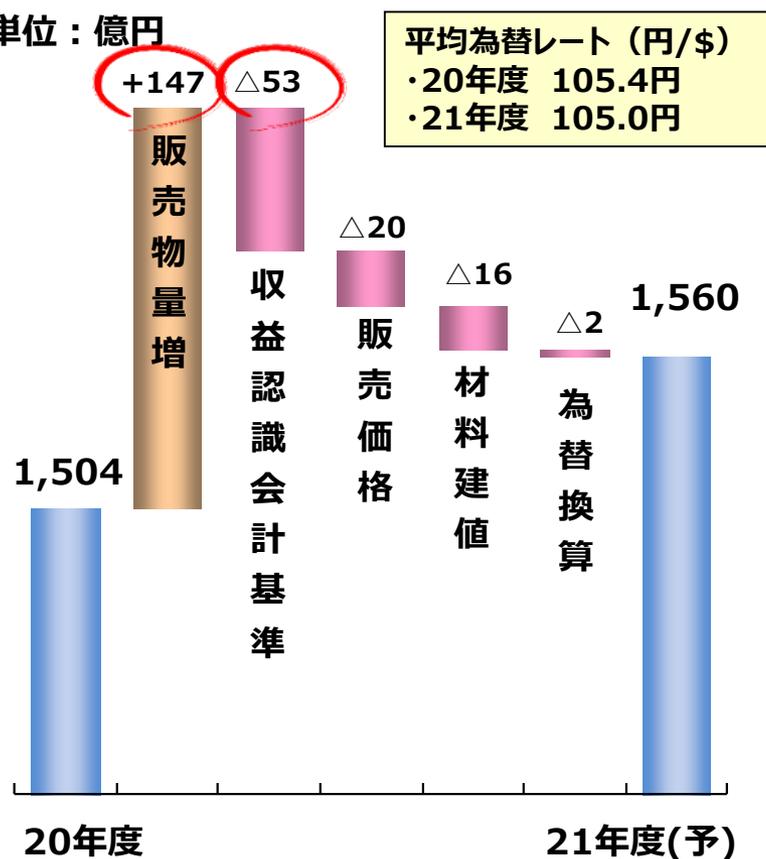
✓営業利益 改善の継続と販売回復により、増益を見込む

2-2 次期 連結売上高・営業利益 増減要因

販売は回復を想定。会計基準の適用で見掛けの売上は減少

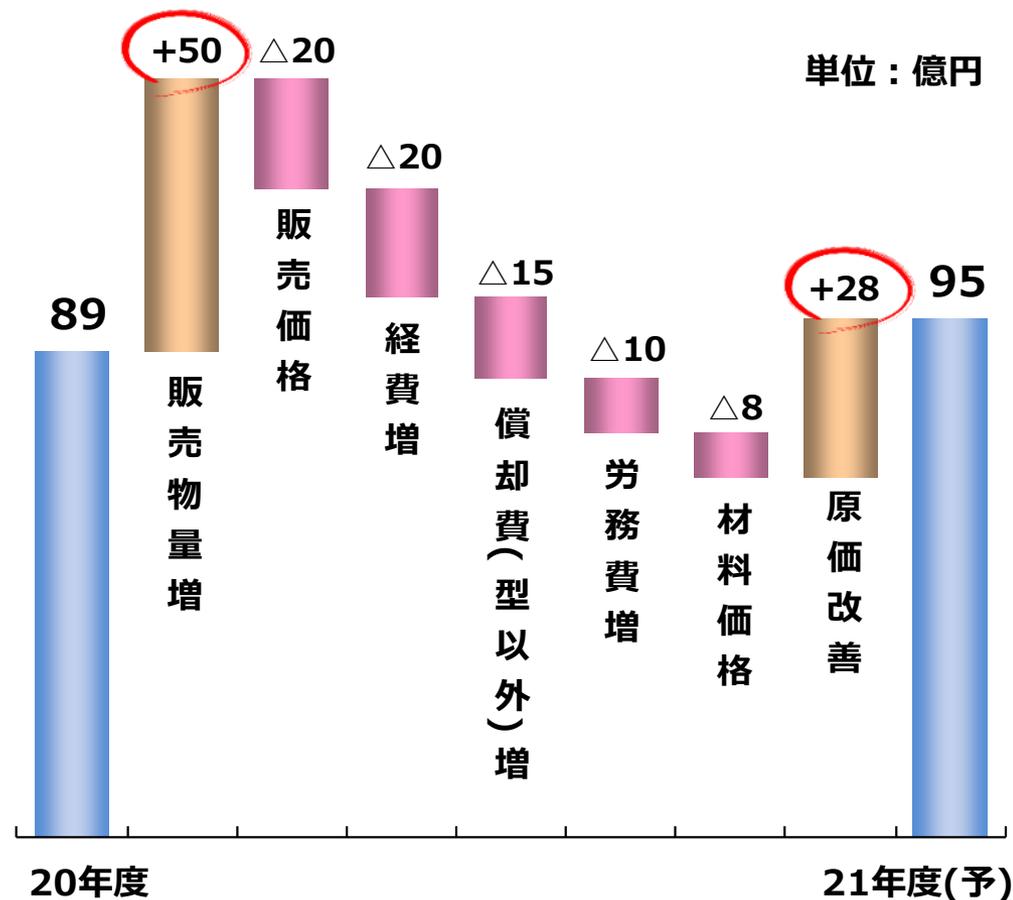
《21年度予想 対 20年度》
売上高+55億円

単位：億円



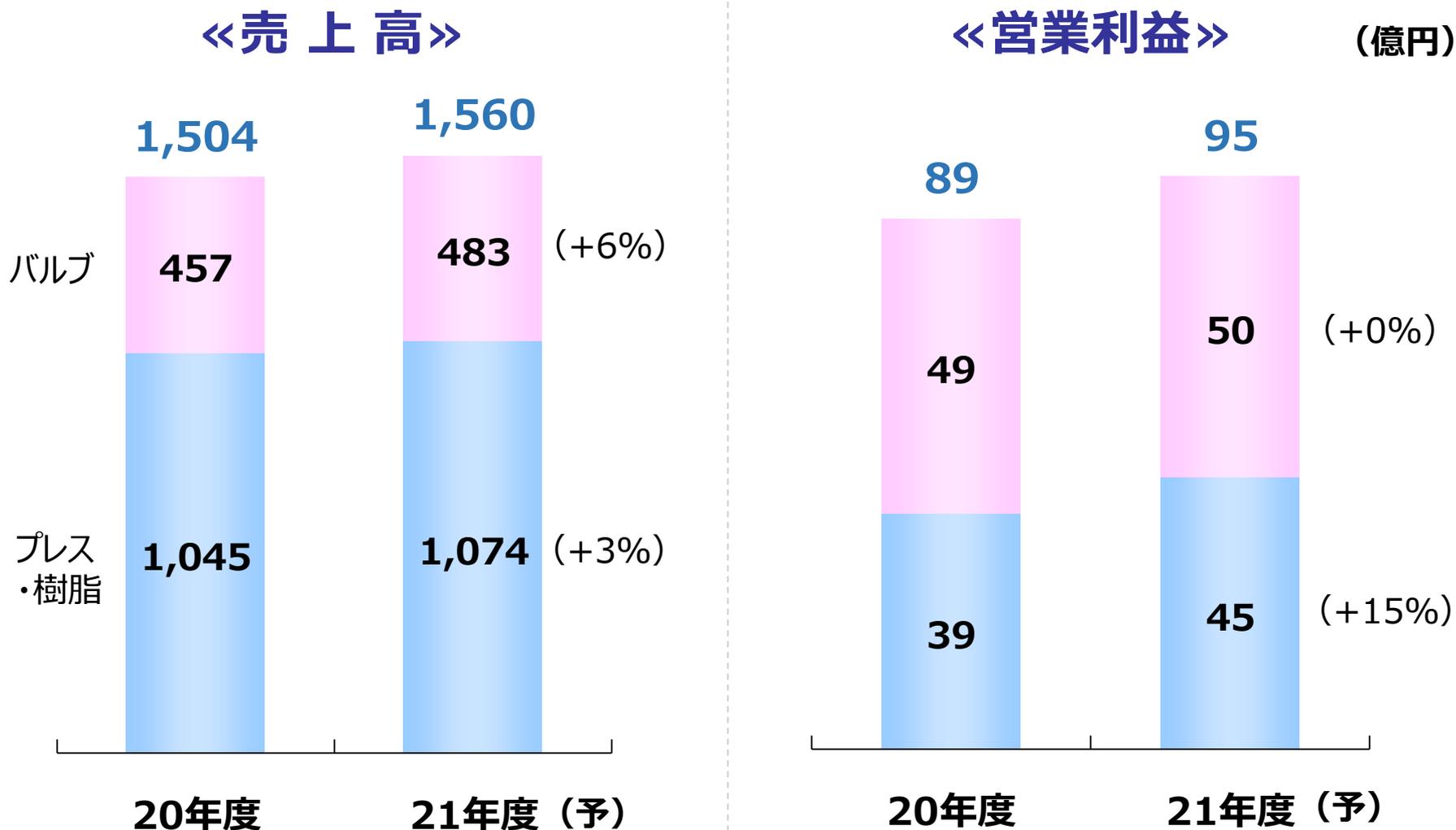
《21年度予想 対 20年度》
営業利益+5億円

単位：億円



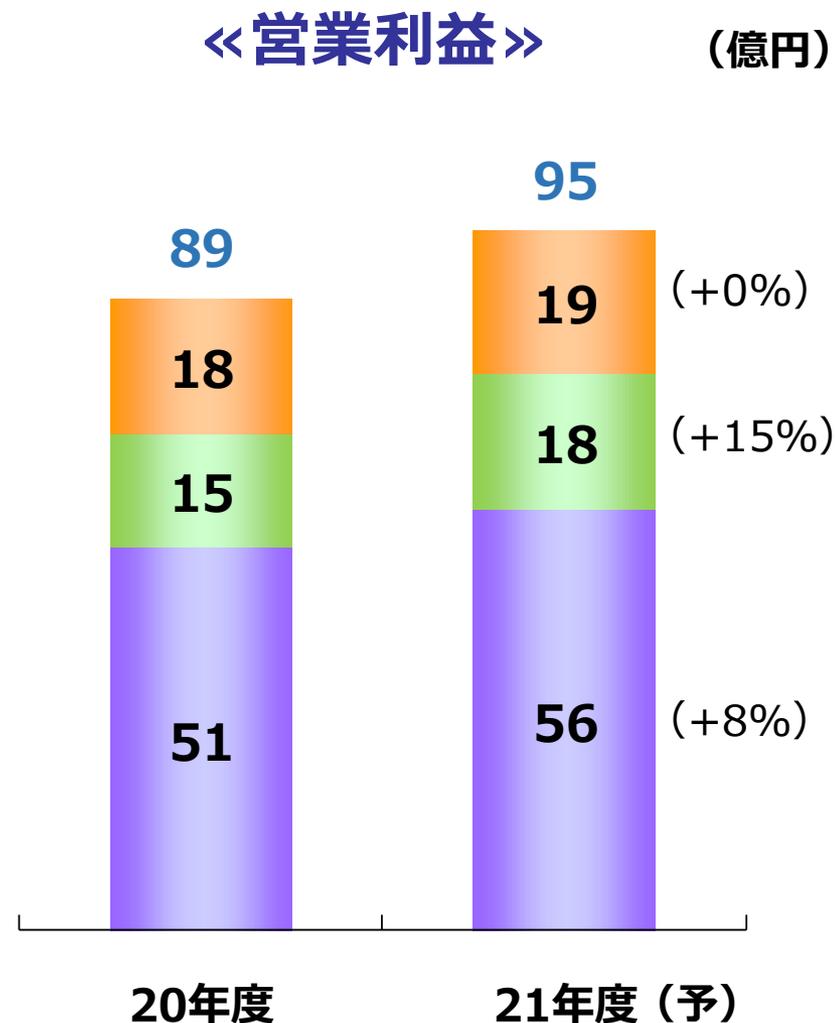
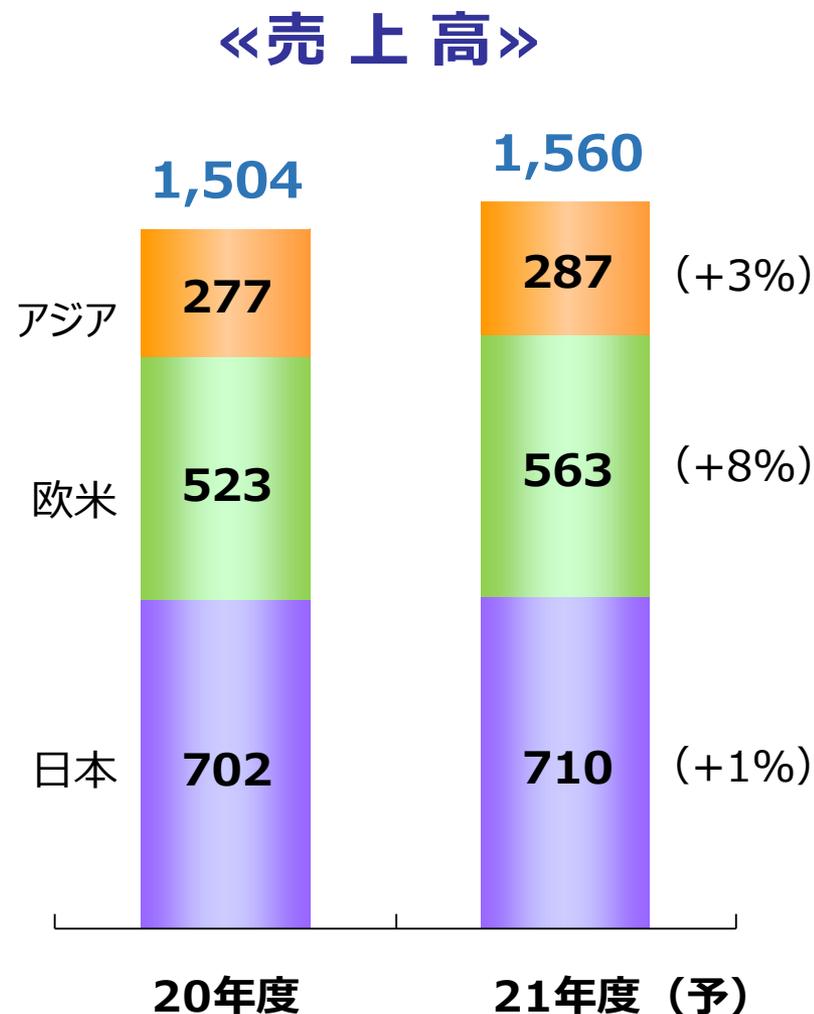
2-3 次期 連結事業別セグメント

両事業ともに増収増益を見込む



2-4 次期 連結地域別セグメント

日本・欧米・アジアいずれも増収増益を見込む

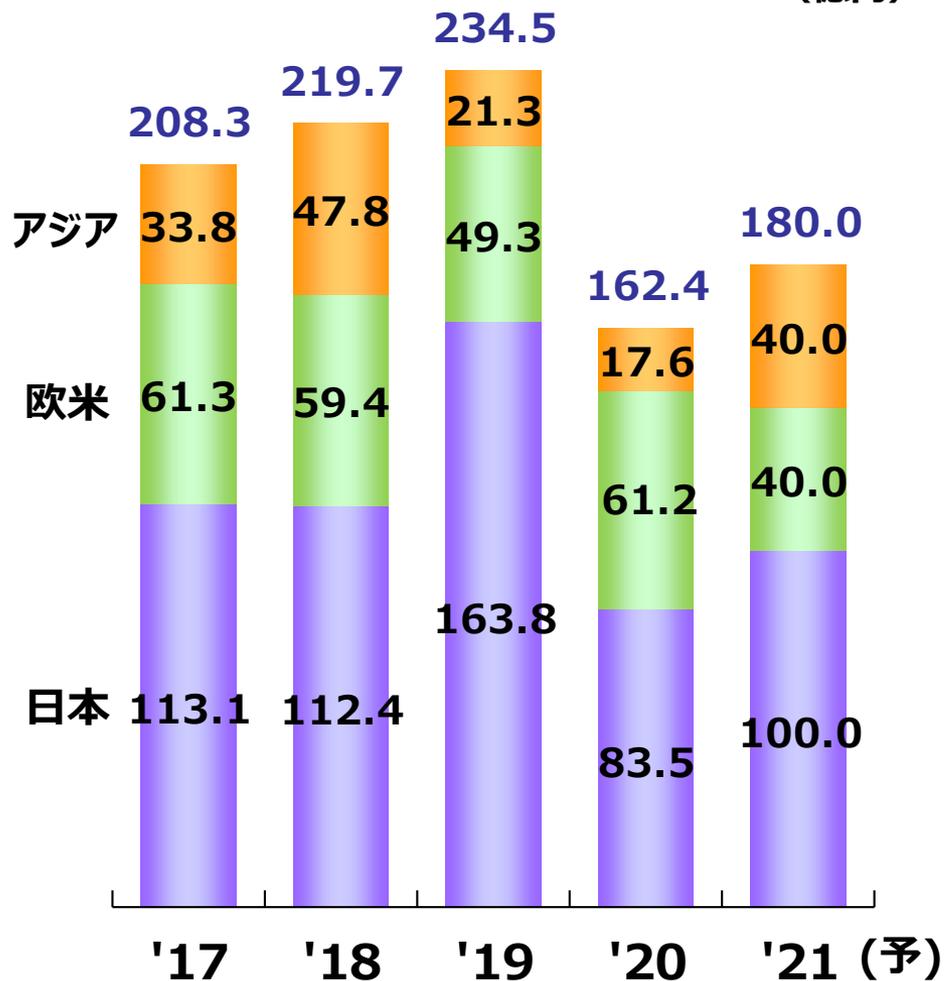


2-5 連結設備投資・減価償却費

設備投資は効果の大きなもの・早く出るものを優先して実施

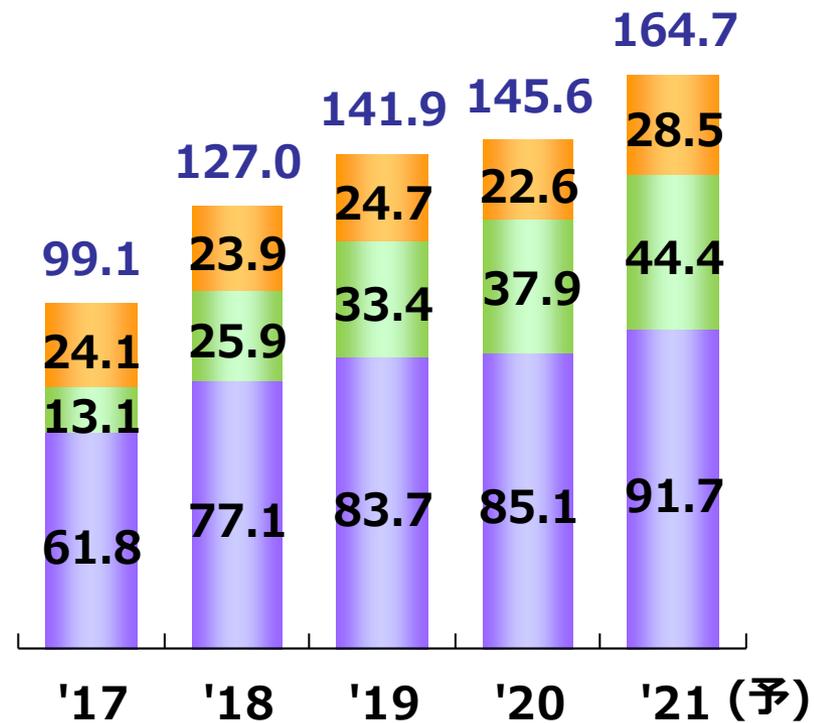
《設備投資》

(億円)



《減価償却費》

(億円)



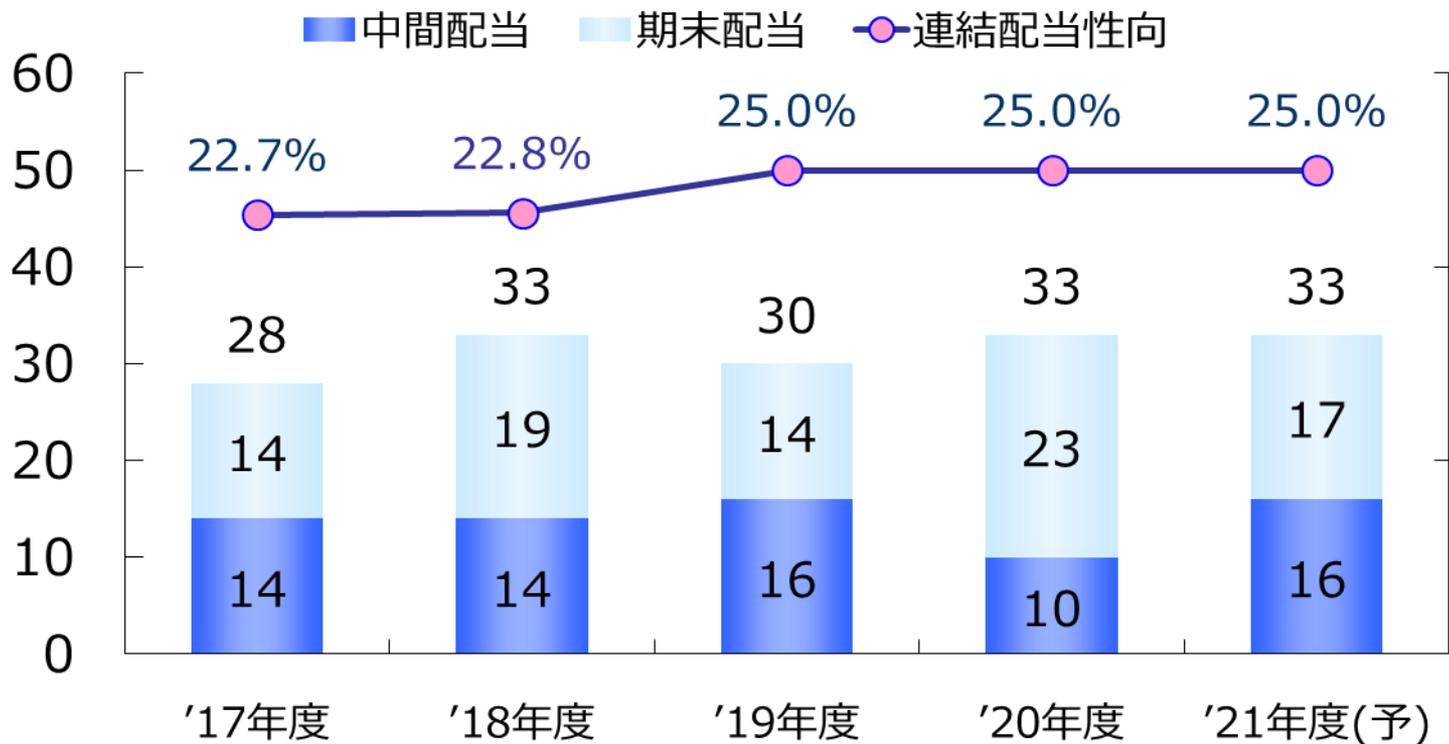
2-7 株主還元

コロナ禍でも安定配当を維持

■ 年間配当

2020年度 年間：33円（中間：10円、期末：23円）

2021年度予定 年間：33円（中間：16円、期末：17円）



※ 剰余金の配当を取締役会決議に移行

1. 2020年度実績
2. 2021年度通期予想
3. 中期の取組み
4. サステナビリティ経営

3-1 外部環境変化への取組み

サステナビリティ経営にシフト

PACIFIC GLOCAL VISION

【100年に一度の大変革】・CASE ・モビリティ社会進展

【OCEAN-22】

業界動向・顧客ニーズに応える技術開発・拠点整備
新技術・新材料・新工法開発の加速

軽量化

防音・防振

電動化

新領域・新製品

カーボンニュートラル
SDGs など
社会的要求の高まり

コロナ影響
スピードアップ
DX など

サステナビリティ経営

3-2 サステナビリティ経営



思いをこめて、あしたをつくる

PACIFIC GLOCAL VISION

PACIFIC環境チャレンジ2050

OCEAN-22

SDGs活動

ステークホルダーとの信頼醸成

製品を通じた社会・顧客課題の解決

環境負荷の極小化

30年目標：CO2排出量 35%削減

人財の尊重と活躍

事業活動

プレス・樹脂
製品事業



バルブ製品
事業



新製品
事業

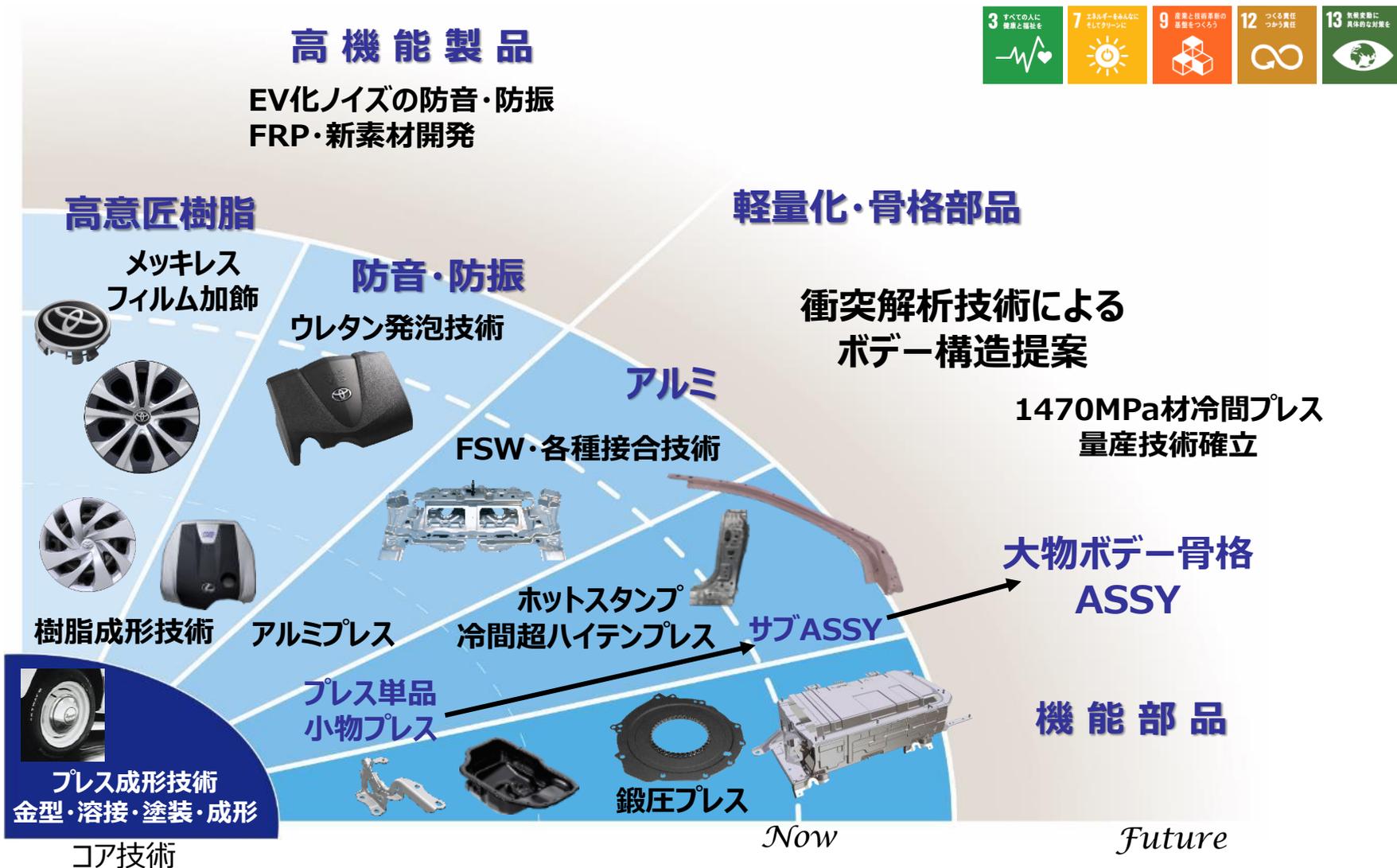


次世代モビリティ社会で、豊かな生活と
持続可能な暮らしに「ものづくり」で貢献

PACIFIC VALUES 「夢と挑戦」「信頼と感謝」

3-3 プレス・樹脂技術の事業領域

電動化に向けた車体軽量化・ノイズ解析技術の進化



3-4 ボデーシェルメーカーへの進化

領域拡大と構造解析の深化



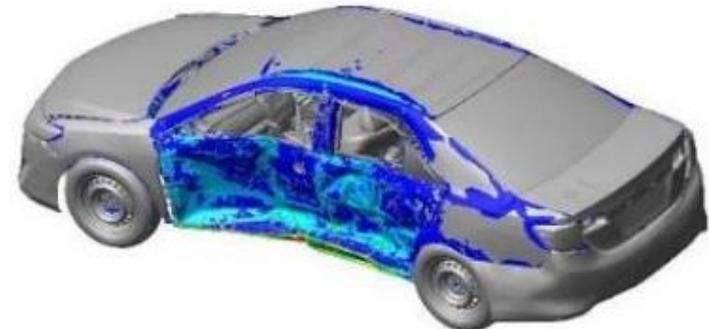
■ 骨格プレス部品の領域拡大

- ・1470MPa材 冷間成形・量産技術開発
- ・大物ボデー骨格ASSY部品の拡充



■ 衝突解析技術の深化

- ・解析モデル拡大、精度向上
- ・ボデー構造の最適提案



3-5 機能樹脂部品の強化

ノイズ対策ニーズに応え領域拡大



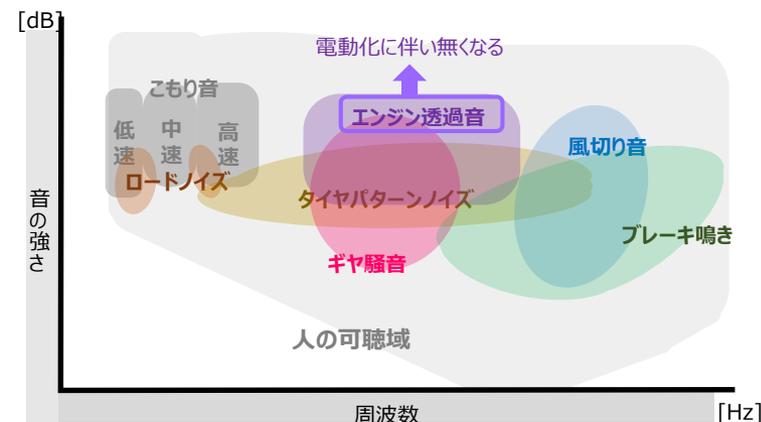
■ 発泡ウレタン製品の拡充

- ・NV性能向上による快適性向上
- ・低コスト化・競争力強化による拡販



■ EV化ノイズの防音・防振

- ・電動化騒音の解析と機能開発
- ・発泡ウレタン技術の深化、新素材開発



3-6 バルブ・TPMSの事業領域

シール技術・制御技術の進化



IoT・新領域



ニーズを探し個別開発・提案
新分野への拡大

各種産業用

環境・省エネ・電動化の
市場ニーズに則した機能製品創出

制御機器バルブ

ニーズに合わせて個別開発・提案

タイヤバルブ・カーエアコンバルブで
圧倒的地位を維持

新冷媒向け製品



圧力・流量制御・電動制御技術

タイヤバルブ

OE向けトップシェア維持
Schraderとのシナジー創出

社会インフラとのコネクテッド



TPMS

機能追加システム提案

バリエーション展開
次世代製品開発

センシング・電子制御・無線技術



シール技術

コア技術

Now

Future

3-7 バルブ技術の集積

Schraderとの協業強化

■ EV用カーエアコンのバルブ開発



パワートレインの変化



暖房用熱源が不足



ヒートポンプ式エアコン

→ヒートポンプ式エアコンへの移行で制御バルブが必要

・日・米・欧3拠点体制で開発スピードアップ

→ 開発のシナジー創出へ

SCHRADER PACIFICで
世界No. 1バルブメーカーを目指す



■ TPMS製品のバリエーション展開

- ・アフターマーケット向け製品の欧米での展開
- ・大型商用車・二輪向けTPMSの開発・展開



商品名

Flex-Sens[®]

3-8 新分野の技術開発

ソリューション技術開発

■ モニタリング・無線技術を応用した新製品開発



環境モニタリング需要

《活用領域》

食品・輸送工程

※HACCP管理手法



冷凍食品



冷凍コンテナ

医薬品輸送

※GDPガイドライン

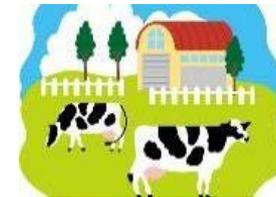


輸送トラック



医薬品・検体

畜産業界



産業界

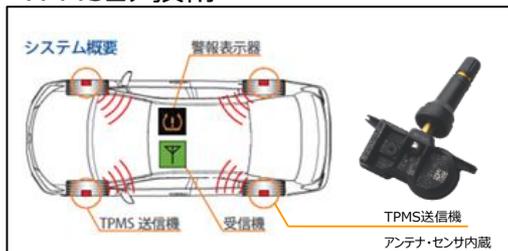


データセンター



電動フォークリフト

TPMSコア技術

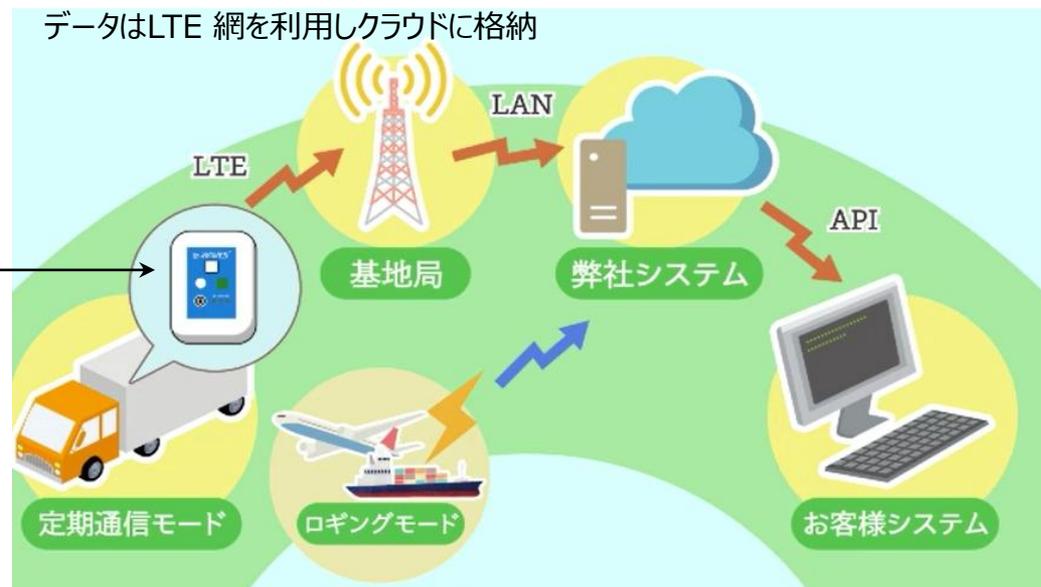
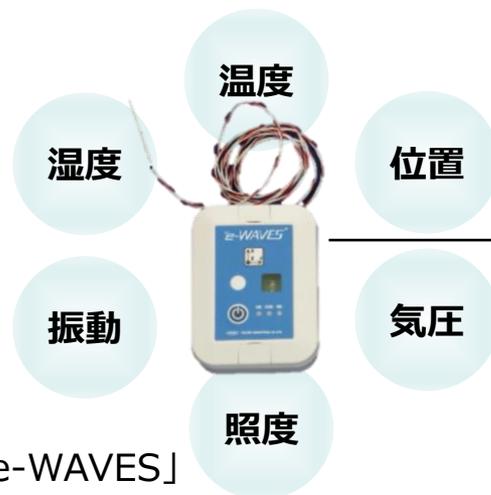


3-9 豊かな暮らしへ貢献する新製品開発

TPMSコア技術を応用した製品展開

■ マルチセンシングロガー「e-WAVES」販売開始

- ・低温下輸送の安心を確保
- ・輸送大手への納入開始



・製品紹介動画：<https://www.pacific-ind.co.jp/products/loT/e-waves.mp4>

■ センシング技術を応用した安全・安心製品開発

- ・フォークリフト用サーモ充電ケーブル
- ・データセンター向けサーバ異常監視システム



充電ケーブル



サーバ異常監視システム

1. 2020年度実績
2. 2021年度通期予想
3. 中期の取組み
4. サステナビリティ経営

4-1 サステナビリティ経営



思いをこめて、あしたをつくる

PACIFIC GLOCAL VISION

PACIFIC環境チャレンジ2050

OCEAN-22

SDGs活動

ステークホルダーとの信頼醸成

製品を通じた社会・顧客課題の解決

環境負荷の極小化

30年目標：CO2排出量 35%削減

人財の尊重と活躍

事業活動

プレス・樹脂
製品事業



バルブ製品
事業



新製品
事業



次世代モビリティ社会で、豊かな生活と
持続可能な暮らしに「ものづくり」で貢献

PACIFIC VALUES 「夢と挑戦」「信頼と感謝」

4-2 サステナビリティの重要課題

ビジョンとSDGsに関連する4つのテーマ

Vision : 持続可能な社会に向けて、コア技術を活かし、新事業・新製品・新技術を提供し続ける企業

■ 製品を通じた社会・顧客課題の解決

持続可能なモビリティ社会と豊かな暮らしへの貢献
モビリティの安全性向上
環境配慮製品の開発



■ 環境負荷の極小化

気候変動の緩和および適応
持続可能な資源の利用
水資源の保全

PACIFIC
環境チャレンジ
2050



Vision : ステークホルダーに信頼され、地域社会に根ざし、共存・発展できる真のGLOCAL企業

■ ステークホルダーとの信頼醸成

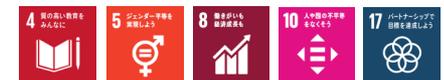
企業倫理・コンプライアンス
責任ある調達
顧客満足度の向上
地域社会の発展



Vision : 社員の新しい発想や挑戦を大切に、仕事と生活の調和が実感できる企業

■ 人財の尊重と活躍

人権の尊重
安定した雇用と働きやすい職場
従業員の安全と健康
人財育成と挑戦できる風土の醸成
ダイバーシティ&インクルージョン



4-3 環境負荷の極小化

「PACIFIC環境チャレンジ2050」でカーボンニュートラルをめざす

■ 2050年までのマイルストーン

	SDGs	項目	現状 (19年度実績)	2030年 目標	2050年 目標
気候変動の 緩和及び適応	 	CO ₂ 排出量	93.9(kt)	2019年度比 35%削減	ゼロ
持続可能な 資源の利用		廃棄物排出量	3,132(t)	2019年度比 国内60%削減 海外30%削減	ゼロ
水資源の保全		水使用量	1,744(km ³)	適正利用	極小化

4-4 カーボンニュートラルに向けた取組み

環境負荷低減の事例

■ 国内外拠点で再生可能エネルギー導入

- ・太陽光発電を国内6拠点、海外1拠点に導入済
- ・東北・台湾：PPA活用し導入を計画



CO2排出量
350t/年
低減

■ 電力供給源切替等によるCO2削減

- ・特別高圧受電・都市ガスへの切替
- 重油使用量削減し、CO2排出量を低減

CO2排出量
1,400t/年
低減

■ 生産工程の省エネ対策推進

- ・新工法・新設備の導入、品質・生産性向上、ロス・廃却の低減
- ・モデル工場の構築、他工場展開

4-5 人財の尊重と活躍

ものづくりは人づくり

■ 人権の尊重

- ・21年にグループの人権方針を策定
- ・サプライチェーンを含めた取組み推進

■ 人財育成

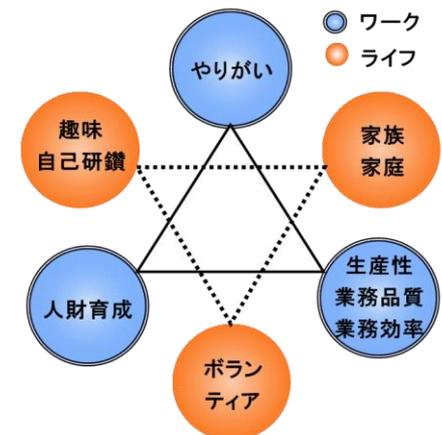
- ・学習館を開校し、安全・品質・技能教育強化
- ・グローバル人財育成と階層別教育の実施

■ 働きやすい職場づくり

- ・安全・安心な職場風土づくり
- ・ワークライフバランスの推進



学習館での教育



4-6 情報開示の取組み

信頼されるサステナビリティ経営

■ サステナビリティ情報開示

- ・サステナビリティレポート2020発行
<https://www.pacific-ind.co.jp/csr/report/>

- ・各種情報のWeb開示

- ・CDP 気候変動評価：

リーダーシップレベル「A -」獲得

サプライヤーエンゲージメント評価「リーダーボード」選出



■ TCFD賛同に向けた取組み

- ・気候変動影響の戦略への統合と情報開示を推進

4-7 ステークホルダーとの信頼醸成

グローバルで地域社会に貢献

- ・中国進出地域へのマスク等の寄贈(20年2月)
- ・岐阜県へ「PCR検査カー」の寄贈(20年9月)
- ・タイ子会社創業30年：パートナーと「救急車」の寄贈(20年7月)
- ・マスク生産ラインの新設：社員・仕入先・地域へ配布(20年9月)



PCR検査カー寄贈



救急車寄贈



マスク生産ライン



思いをこめて、あしたをつくる

Passion in Creating Tomorrow

(参考) 収益改善事例

徹底した現場改善・品質向上活動・固定費削減活動

■ 減産時も競争力のある工程づくり

- ・リードタイム短縮・在庫低減・省スペース・人員削減
- ・工程スルーでの不良率低減、IoT・AI活用



現場改善

■ 顧客と一体となった品質向上活動

- ・エンドユーザーニーズ、製品の使われ方を再確認
- ・困りごとを改善提案、顧客とすり合わせ、
品質基準を適正化



顧客からの表彰

■ 固定費削減

- ・仕事のやり方改善、クロスファンクションによる業務見直し
- ・Web会議活用による即時対策